

図書報だより

題 字 島根県教育委員会教育長

号 数 第 18 号
発行日 昭和 47 年 5 月 1 日
編 集 島 根 県 立 図 書 館
発 行 松 江 市 内 中 原 町 52
TEL (0852) 22-5725
印 刷 (有) 高 浜 印 刷 所



私のおすれられない本

ミュンヘンオリンピックも、もう間近にせまっている。「オリンピック」というと、今年の2月にあった、札幌オリンピックのことを思い出す。また、それと同時に、「極地を探検した人々」という本のことも思い出す。

わたしが、この「極地をたん検した人々」をはじめて読んだのは、5年生の夏休みの時のことだ。わたしは、この本を読んだ時、あることを思った。それは、どんなに技術がよくても、そしてりっぱな計画であっても、その目的を成功できない時がある、ということだ。どうしてかということ、人それぞれに、「運」があるからだ。どんな最悪の場においても、運がよかったら、そこからのがれることができるかもしれない。また、どんな幸運にめぐり会えたとしても、運が悪かったらこの幸運には、二度と会えないかもしれない。

この本を読んで、こう思ったわたしを、また考えさせてくれたものがある。それは、「札幌オリンピック」だ。わたしは、70メートル級純ジャンプと、90メートル級純ジャンプを見てこう思った。70メートル級の時には、1位から3位までを日本が独せんしたのに90メートル級の時には、3位にもはいれなかった。笠谷選手はゆう勝すると日本人たちは思っていたのに。やっぱりその時その時によって運があるのだろうか。また、さらによく考えてみると、日常生活の中は、全部とっていいほど運というものがあるのだと思った。

わたしは、この「極地をたん検した人々」を読んで、はば広く考えさせられたと思う。そしてこの本は、いつまでもわたしの頭の中に残る本だろう。

内中原小6年 佐 藤 洋 子

子供読書週間にちなんで

現代社会における子供たちと読書

本好きなお母さんに

松江市古江小学校
渡部 郁子

「うちの子は、もう字が読めるのにいくら本を買ってやっても読もうとしません。たまには読んでくれというのですよ。もうひとりで読みなさいって叱るんですけど」と言われるおかあさんがありました。低学年ではこのお子さんのすがたは別に不思議ではないと思うのです。幼時の語り聞かせ、読み聞かせからひとり読みへの移行時代ですから、まだおかあさんや先生の読み聞かせも必要な時期です。字を覚えたからといって、何の手だてもなしに、どんどん本を買って与えてもかえって逆効果にもなりかねません。たまにはおかあさんが、愛情をこめてじょうずに本を読んでやって、「本っておもしろいなあ」と思わせることが、これからのひとり読み、よい読書への橋渡しともなるでしょう。お子さんに読んでやったり、お子さんに読ませておかあさんが聞いたり、いっしょに読んだりあとの話し合いをしたり……1冊の本が親子のすばらしい対話をうむでしょう。

童話や物語ばかりでなく、お子さんが「これはなに？」「……ってどういう意味？」などと質問をしたら、その機をとらえて、いっしょに、低学年向きの図鑑や事典や関係の本などから目的のものを選んで探したりしてあげることです。そして、「ほらここに書いてある、こんなわけなんだね」と読ませればお子さんは、疑問がときあかされた喜び、新しいことを知る感激に、きっと目を輝かせることでしょう。こんな導きが非文学へ、調べ読みへ、最近謂われる情報操作的な読書へ目を開かせるもとにもなると思います。

低学年はだじな読書の入門期、もうしばらくはいっしょに歩いて、次第にひとり読みへ移らせてあげてください。

おかあさんがお子さんの本の愛読者であること、本好きなおかあさんだと思わせることが、最高の読書指導になるのではないのでしょうか。

読書のふるさと

松江市西茶町31
南目 智恵子

「お兄ちゃん、今夜は何チャンを見る？」

「きょうは、あのドラマ、最終回だぞ。モチ、あれ見よう。」

夕食が終り、思い思いのポーズで、テレビの画面に見入っている子どもたちの様子を見てみると、私たちが子どものころは、一体こんな時間には何をして過ごしていたのだらうと思います。

「もう、スイッチを切って！」と、今、我々がたしなめるように、よく、「本は、いいかげんにきりをつけなさい」と叱られたものです。

その頃、本を読む糸口になったのは、夜のくつろぎの中で、親や年寄りから聞いた物語でした。

現代は、家庭の核化と共に、年寄りのいない家庭が多くなり、両親も時間に追われた毎日をくりかえしています。しかし、多面的でテンポの早い生活の中で、映像のリアルな動きを追う子どもたちの興味を、思考的な文字の世界に求めるようにしむけてやることは非常に難しいことですが、やはり親として大人として大事なつとめではないでしょうか。

私の子どもの場合、読書の習慣の糸口になったのが図書館でした。

大好きな動物が出てくるお話の本が、とてもたくさんあって、図書館のお姉さんが、一緒になり、さがして下さったことなど、うれしそうに目を輝かせて話してくれました。

図書館には、現代の雑音が無いから、まわりがみんな本だから、何の抵抗も無く、子どもたちも文字の世界に入っていけるのでしょう。子どもたちにとって、読書のふるさとそれが図書館だと私は思います。

子どもたちは、1日の行事が終ると、必ず何か本を読んでいるようです。

そして作者とのむきあい、ふれあいを、親子の対話とふりかえて、喜びを感じている昨今です。

モデル文庫

三刀屋町モデル文庫

三刀屋町は、出雲部の中央、飯石郡の東北端に位置し、東西10軒、南北15軒、面積82平方軒に及ぶ。町の中央部を斐伊川水系の三刀屋川が南西から東北に貫流し、これに沿って国道54号線が従貫し、これを中心に、骨路線としての県道町道が枝状に連繋し、国鉄、一畑バスが運行している。

この地方には先史時代より人類が住んでいたと思われる遺跡、古墳が点在し、古代土器などが発見される。素戔鳴尊がこの地方を開拓し次いで大国主命が三刀屋川の北方にそびゆる国見山を国土開拓の根拠とした御門があったことにより、この地方を三刀矢といった。神亀三年三屋に改め中世に三刀屋と書くようになった。昭和3年11月町政を施行し同16年11月一宮村と合併、続いて29年1月飯石、中野、鍋山の三村と合併新しい三刀屋町が誕生した。

昭和42年6月県立図書館から、モデル文庫設置の指定を受け役場階上の1室に793冊の図書を備え受け文庫としてのスタートをきった。翌43年7月、パーソナリティーに富んだ特色のある町づくりとして挙町一致「教育の町」を宣言し、続いて45年10月、学問芸術を限りなく尊び、己の如く隣人を愛しつづけた、故永井隆博士の崇高な人間性を青少年教育、社会教育に資するため、博士先立の地三刀屋町に永井記念館を建設、これにモデル文庫を併設して現在では1,500冊を配架している。特に個人では購入しがたい、百科、歴史、美術等高価な事典300余点がライオンズクラブから贈られ一段と光彩を放っている。この外児童向きの日本・世界各文学全集等も配置し高校生及び小中学生の利用度は日に日に高まりをみせている。特に夏休み、冬休み等は唯一の冷暖房施設のせいも手伝って満員の盛況である。一方公民館、青年団などに対する集団貸付が導火線となり単位公民館等が自主的に図書充実に力を入れ地域の読書振興に貢献するなど学習意欲の高まりと善意の輪は波紋の如くひろがりつつある。

— 著書と私 —

— 石見のわらべうた —

中学教師といえども学徒の端くれ。専門を生かしつつ地域と密着した研究をしなければ、生甲斐はないはずだ。

まことに気おいたった言い草ではあるが、昭和32年、島大を出たばかりの若き私は、真底そう考えていた。まもなく言語伝承に研究テーマをしぼった私は、余暇をさいては古老訪問に明け暮れていた。そんなある日、帰省に際して私は、赴任地で親しくなった方から印刷所へのことづけを頼まれ、当時東本町にあった浜田印刷所へ行ったのである。

そこで、全く偶然にお会いした内藤正中先生（島大教授）から「君は何をしている」と聞かれ、即座に「石見地方の民話、民謡を採録研究しています」と答えたことから、私の運命は方向づけられてしまった。先生は「うん、おれが朝日新聞松江支局長へ紹介するから行きたまえ」と、私の気持ちにはおこまいなく、ご自分の名刺にすらすらと添書され、びっくりしている私に手渡されるやいなや、さっさと帰ってしまわれた。半ばしかたなく私は名刺を片手に松江支局へ……そして予想外のわらべ歌の連載がきまり、私は35年9月6日から9カ月余り、53回にわたり朝日新聞島根版へ執筆を続けた。バイクに乗り、録音機をぶらさげ、あちこちを走りまわりつつペンを走らせたのである。連載を終えるとすぐ出版の話がもちあがり、「石見のわらべうた」として、山陰民俗学会から出版される光栄を得た。もちろん、処女出版である。

運命とは実に不思議なものだ。あのとき、印刷所への用事を頼まれなかったら、また、内藤先生と行き違いになっていたなら、多分今日のわたしは存在していなかったに違いない。わたしは今でもこの運命のいたずらについて、奇妙な思いでふり返ることがよくあるのである。

横田中学校島上校舎教諭 酒井薫美

【子供達の声】



県立図書から約 500米、歩いて 5分ばかり。図書館の西方にぼくたちの学校がある。

授業が終るとほとんどの者が図書館へ行って、本を利用している。

図書館に対する子供達の声を聞いてみた。

県立図書館を利用して

5年 飯田 昌規

ぼくは毎日といっていいほど県立図書館にかよっている。4年生の時、学校で先生が「島根県の鉄道、道路などのことを調べて来なさい」といわれた時も家や学校図書館にはそれらのことを書いてある本はなかったが図書館に行って調べることができた。こんな時近くに県立図書館があつてほんとうにたすかる。

しかし、一つだけ困ることがある。

それは、いつも調べたい本がすぐみつからないことだ。小さなひきだしの中にアイウエオ順に小さいカードがあつてそれを見てどこの本だなるか調べなければいけない。

はやく本をさがせる方法はないだろうか。

図書館への希望

5年 宮廻 和男

県立図書館へかよい始めてから5年になる。

図書館にかよって、いろいろなことを知りほんとうに勉強になった。

図書館はすばらしい設けで落ちついて本を読んだり勉強できる。

だが、不満な点がちょっとある。

小中学生室の本は、だいぶんやぶれたり、はずれたりしていることだ。ぼくは、学校で図書委員をしているので、本がやぶれたりしているのは、修理している。図書館の係員の人達も、やぶれた本を修理していると思うが、ちょっとやぶれている本が多いようだ。

あやまってやぶれたのだろう。ぼくたちも、やぶれていたらなおしたり、大切にとりあつかわなければいけないと思う。図書館でもぜひ、本の修理をする日を決めてなおしてもらいたい。

ぼくらの学校にも 立派な図書室を！

県境の町、雪国赤名。その赤名から山あいの谷川に沿って砂利道をくだること6軒、この静かな辺地の地に私たちの学校がある。

この小さな学校にも名許りの図書室がある。この図書室には3つの本棚に約500冊の図書が配架され、その外ミシンあり、アイロンありで所謂家庭科教室と兼用で、その上算数や図工の教材まで所狭しと同居している。それでも子どもたちはこの部屋を、わたしたちの図書室と呼んで毎日利用している。

この図書室について子どもたちはどう思っているだろうか。5年生のある男の子は、「ぼくたちの図書室は小さくて本が少ない。学級みんなで何かを調べようと思つてもそのことが書いてある本がない。それに一緒に読みにゆくと狭くて困る。」またある6年の女の子は、「今まで何回か図書室を利用したが、参考書がなくて困つた。」など、これらの声に聞かれるようにこの子たちもたしかに知識欲が大きく、また読書意欲も旺盛である。

この実態を教師の立場から見れば、文化的刺激の少ない生活経験の貧弱な辺地の子どもでもあるからこそなおさら読書経験を体得させる必要がある。しかし現状は残念ながらそれに応えるだけの本がない。

この私たちみんなの願いである図書の充実については、近年PTAの協力もあり毎年何冊づつかの新本を手にするようになっていく。また県立図書館のへき地こども文庫もその希望に沿ったもので、子どもたちは文庫が到着すると長蛇の列を作つたものだった。そんなときの子どもたちの喜びに満ちた顔を見るにつけても図書の充実をという願いを一層強感した。「ぼくたちの図書室は、せまくて本が少ない。それに図書室にはいろいろなものがおいてあるので物置小屋の感じがする。出雲や、松江の町には立派な図書室があるけど、ぼくたちの町には図書室はない。せめてぼくたちは広くて本が沢山ある図書室がほしい。」本校の図書室の実態から、4年生の男児はこううたえている。

飯石郡赤来町立谷小学校

岡 千歳

図書館資料紹介

1. 図書

第18回青少年読書感想文コンクール課題図書が決まりました。その中で数冊紹介してみましょう。

「モチモチの木」 齊藤隆介作・滝平二郎絵

岩崎書店刊 590円

齊藤隆介氏の既発表の作品に滝平二郎氏が独得のきり絵で絵づけした絵本です。齊藤・滝平のコンビは「八郎」「三コ」「花さき山」の絵本の名作を出しています。今回は、トチの木と少年をテーマにしています。「栃の実で作った餅はすてきにうまく、少年はその木をモチモチの木と呼び、その木に灯がともるのは勇気のある子どもだけが見ることができると言われているが少年もついに見てしまった」という物語を民話風の語り口調で表現しています。

幼稚園、小学校低学年のみなさまにおすすめします。

「ホタルの歌」 原田一美著

学習研究社刊 500円

公害問題が騒がれホタルも段々姿を消していくこの頃、徳島県の一山村で先生と子どもたちがホタルを守ろうと運動をおこし、観察しつづけてできたのが本書です。ホタルについては何も知らなかった著者が「手さぐりで未知の世界を『さぐっていった』というより『さぐらされた』といったほうがよい」という位、子どもたちの熱意と真剣さが実を結んだともいえます。人間以外の植物や昆虫や動物を犠牲にすることはできないという子どもたちの声を大切にしたいものです。

「公害のはなし」 松谷富彦著

ポプラ社刊 650円

本書では公害のごく一部の例を紹介し、現実を考えるきっかけにしている。

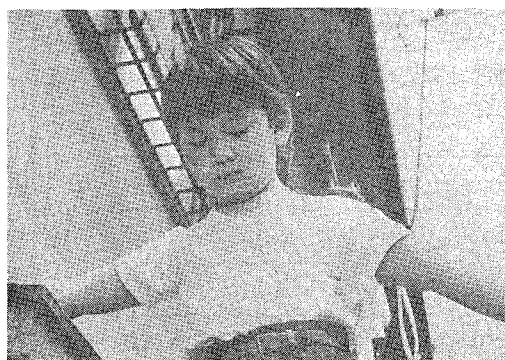
子ども用の図書では現実の問題をとりあげて追求することはあまりないのだが、次の世代をになう子どもたちの環境破壊に対する意識を高めるのには最良の本です。

今年の課題図書は、公害問題に関する本が2冊もあり、小学校高学年、中学生のみなさまにおすすめします。

2. 映画フィルム

「こどものしあわせとは何か」

(白黒30分)



杉山幸吉(63才)は5人の子どもの父親である。今度、末子の正造(27才)の嫁が、はじめての子どもを出産する。知らせを受けた幸吉は病院へ顔を出す。病院の待合室に正造が落ち着かない姿でいる。実を言うと、この正造は余り親の言うことをきかない子で、あまり良い子とは言えなかった。しかし、それが必ずしも悪い子だとはいえないと、自分の信念をまもることを重んじてきた明治生れの幸吉は考えていた。正造が子供の頃「あの子とは遊ぶな、この子とは良くない」と、多くの親はいったが、正造はいろんな友達と遊ばせた。また、6年生のリーダーの命令で、水門までひとりで行き、家で大きわぎになったことがあった。家に帰った正造を、母はひどく叱るが父は叱らなかつた。「頑張ってみようという活発な男らしい心を封じるのは親の仕事じゃない。角をためて牛を殺すようなことはしない……」そういう気持の父親であった。そして今、正造は愛児の呱呱の声を聞きながら、父親としての自分をかみ締めるのであった。以上がこの映画のあらましです。

この頃の親は、子どもに対してあまりにも寛大すぎる気がします。そのために子どもは、ほしいと思うものは容易に手に入り、またいやなことは親がしてくれるものだと、自然に思い込むようになります。その結果として、困難に耐える力が養われず、努力と向上心の失なわれた子どもをつくり上げているのではないのでしょうか。この映画をとおして、将来につながる、本当の意味での「こどものしあわせとは何か」を考えていただきたいと思います。

告知板

こども読書大会

情報氾濫の時代に表面だけの知識に眼をうばわれる現代の子供達に正しい読書技術を身につけ、情操ゆたかな人間を育てることが大切である。そこで図書館では毎年「こどもの読書週間」行事の1端として、子供読書大会を行なっている。

本年度は、県立図書館と大原郡大東町において下記のとおり開催することになりました。

多数おいで下さい。

なお、人数を制限するため5月9日から小中学生室で先着順に整理券をだします。

記

1. 大東町大会

開催期日 5月12日(金)13時～16時
 開催場所 大東町 塩田小学校
 内容 ①ストーリー・テリング
 ②マジック
 ③映画「君ならどうする」
 「ゴリラ大陸」
 「森の王様」

2. 館内大会

開催期日 5月14日(日)14時～17時
 開催場所 県立図書館集会室
 内容 大東町に同じ ただし講話もある。

中国文化講座

5月から県立図書館で開催

最近中国問題が脚光を浴びている折から、県立図

書館では、中国に関する歴史書や、文学書などをひもとき、中国文化を基礎から学んで新しい中国を認識するのに役立てるため、中国文化講座をはじめることになりました。

講座は5月からはじめ期間は1カ年です。前期は中国史、後期は中国文学について主として読書会方式をとりいれ、テキスト『中国』ラディモア著。

『中国の歴史』貝塚茂樹著などを中心に講義や、映画学習、研究討議を行ないます。

講師は島根県立松江南高等学校の杉原隆先生等があたり、一般を対象に毎月第1第3金曜日午後6時から約2時間開催する予定です。

希望者は、ハガキに住所(電話番号)氏名、職業、年齢を記入して下記へ申し込んで下さい。

松江市内中原町52番地

島根県立図書館振興課あて

(電話 松江22-5730)

人事異動

◎お世話になりました

図書館協議会委員

花谷 静夫 (市教育委員会へ)

庶務課長 竹内 豊 (教育庁社会教育課へ)

主事 高根美和子 (〃 福利課へ)

司書 深田百合子 (広島県立図書館へ)

◎よろしくお願ひします

図書館協議会委員

岩田 剛 (城北小学校長)

主幹 藤岡 大拙 (県立松江南高等学校より)

庶務係長 柴田 英夫 (隠岐教育事務所より)

司書補 森山 典子 (採用)

図書館行事予定

7月～9月

項目	行事・事業名	場 所	内 容	展 示	
7	上			全国観光 ポスター 展	
	中	自動車文庫巡回(第2回)	関係市町村		読書会等
		図書館協議会	当 館		協議会委員
	下	映写機操作認定講習会	関係市町村		県内5ヶ所
郷土の歴史講座		当館、浜田図	一 般		
8	上	当 館	公共図書館職員等	音のぞる 図書資料 展	
	中				
	下				
9	上			アマチュ ア写真展	
	中	関係市町村	読書会等		
	下				

新着資料の紹介

1. 図書資料

- 総記書名 著編者
出版書 鈴木 敏夫
- 哲学
希望の革命 エーリッヒ・フロム
哲学全書 1～14巻 (理想社版)
現代の反動思想 ボーヴォワール
現代心理学の課題 1～12巻 (東大出版会)
禅と西洋思想 毛利 与一
- 歴史
(日本における)歴史学の発達と現状 1～3巻
清州城と名古屋城 中村 栄孝
辛亥革命 野沢 豊
アラビア史 前嶋 信次
チベット 長沢 和俊
- 社会科学
スポック博士の現代診断 B・スポック
(精解)行政法上・下 (光文書院)
本庄栄治郎著作集 1巻 本庄栄治郎
地域経済と交通 大塚 久雄
日本のシンクタンク (ダイヤモンド社)
- 自然科学
整数論入門 久保田富雄
ファインマン物理学(2)・(3) ファインマン
海洋学の創始者達とその業績 バートマン
化学進化 原田 馨

- 病気の社会史 立川 昭二
- 工学
機械の神話 ルイス・マンズフォード
環境用語集 石橋 弘毅
建築デザインの原点 小林 盛太
機械と哲学 ピエール・マクシムシコル
- 産業
レーニンの農業理論 渡辺 寛
国家独占資本主義と農業(上)・(下) 井野 隆一
日本煙草経済論 服部 満江
広告の理論史 石川 弘義
世界海運史 黒田 英雄
- 芸術
わび 水尾比呂志
石仏の美 1～3巻 佐藤宗太郎
古墨 宇野 雪村
十二支 松本 栄一
魚拓 檜山 義夫
- 語学
国語の建設 林 武史
ことばから見た中国 藤江 佐史
(NHK録音集)続・英語会話入門 松本 亨
- 文学
上代日本文学と中国文学上・中 小島 憲之
枕草子研究 岸上 慎二
透谷全集 1～3巻 北村 透谷
私の見た中国 パール・バック

2. 視聴覚資料 (16ミリ映画フィルム)

題名	巻数	内容	対象
第二次世界大戦の余波	白黒 3巻	第二次世界大戦終結直後から約二年間の世界情勢と、その動静を、すべて当時の貴重な実写フィルムによって編集したもの。	高・一般
ぼくは青い炎です	カラー 2巻	実験や動画などを取り入れて「家庭ガスの正しい使い方」をやさしく解説する。	中・高 成人
「親の目、子の目」シリーズ №1 こんな遊び場が……	白黒 3巻	昭和46年度に放送されたテレビ家庭教育番組「親の目、子の目」を16ミリフィルムに複製したものである。 現代における社会の変貌、家庭生活の変化は父親の権威の失墜、母親の過保護、家庭の教育機能の低下をもたらし、子どもの健全な人間形成を妨げている。 こうした現実の中で、家庭教育についての関心を高め、そして必要性を認めさせることによりより効果的な家庭教育が行なわれるようにと企画されたものである。	成人 家庭の主婦 家庭教育 学級
「親の目、子の目」シリーズ №2 無理解といわれて ——わが子の青春——			
「親の目、子の目」シリーズ №3 七人のきょうだい			
「親の目、子の目」シリーズ №4 かあさんが田んぼに入った……			
「親の目、子の目」シリーズ №5 タミちゃんとおぼぼ			
「親の目、子の目」シリーズ №6 風とハンドルのうた			
「親の目、子の目」シリーズ №7 不屈のスマッシュ			
「親の目、子の目」シリーズ №8 おばあちゃんからもらった お小遣い			
「親の目、子の目」シリーズ №9 よい子ってなあに ——さとの君の条件——			
「親の目、子の目」シリーズ №10 ひとり歩きの記 ——正幸君の成長記録——			
ワン・ポイント・アドヴァイス ——楽しいドライブエチケット——	カラー 2巻	ハンドルを握る若いドライバーと自動車好きの少年が見聞した色々なドライブ事例をもとに、様々な運転エチケットを示していく。	成人